

# 染香

ぜんこう

福泉寺寺報  
令和3年7月  
第97号  
(毎月1日発行)  
ホームページ



朝起きて  
調子良いので  
医者に行く

## おたまじゃくしがやってきました

田植えの時期は生き物が元気で。年明けには熱帯魚、先月は本堂にツバメ、今は末娘がダンゴムシを握って帰宅…。生き物の関心が強い時期なのだと思います。

先日は、息子がゴミ捨ての手伝いをしたついでに、ご近所の田んぼからおたまじゃくしをすくって帰宅しました。(捨てるに付た容器で)

一緒にエサについて調べました。基本的には雑食だそうです。ご飯粒、ゆで卵、煮干し、パン、ゆで野菜…ほかの魚が出すバクテリアまで食べるようです。

「よし、それなら少しお世話しよう」半月が立ち、9匹が2匹(ごめんね)になり、最近足が出てきてみんなで感動しました。自然界では当たり前のように繰り返す姿を、世話を通してはじめて、何かを得たような気持ちになりました。



「世話をする側が何かを得る」。この

ことは、人間同士でもいえるような気がします。たとえば、人間同士の世話といえは、「育児」や「介護」が挙げられますが、世話をする人なしには成り立たないので、**世話をする人も「何か」をもらっているということに気がつく**、ということがあるかも知れません。お見舞いに行つて、逆に元気をもらった、というのち、そのひとつでしょう。



一方で、そんな「心地よい体験」だけではありません。「子育てしんどい」「介護しんどい」も同じです。何がしんどいのかというと、「ごちらの都合に合わせてくれない」「しんどさですね」

「しんどさの正体が自分中心の心だった」という気づきです。これは仏教に触れる上で一番土台になる部分です。(住職)

## お経のことば折々

《乃至(ないし)》

「乃至」は「または」とか「〇〇」の「〇〇」のように範囲を表し、法律用語としても使われます。経典でも同じ意味ですが、その他に、「数を限定しない」という意味もあります。

例えば、「1回でも、10回でも、100回でも」という具合です。

お寺やお墓にお参りした数、写経した数、読経した数、お念仏を称える数、お線香の本数…。仏さまの眼差しを通して想像してみてください。

## ちょっと あたまの こりほぐし

なぞなぞです。

人生で最も大切な時期はいつ？

答えは裏面です

(「今」と答えた方、ぜひお会いしましょう)



## おてらから

### お盆法要(盂蘭盆会)

日時 8月16日(月) 午前10時～11時半

法話 当山住職

「お盆ってほんとは何？」

持物 お念珠・お経本・式草(あれば)

服装 自由(マスクお願いします)

本堂にエアコンを入れましたので快適です！

### ホームページを有効ください

- 「お寺の掲示板」
  - 「月一回の新聞」
  - 「住職の日記」
  - 「法話映像」
  - 「葬式について考えるコラム」
  - 「行事案内」
- など随時更新しております。ありがたくも皆様からのお便りも頂戴しております。

### 重箱の底

大阪 常見寺 利井明弘 カケイメイコウ

毎年、暮れになると、思い出すことがある。父は「味の上人」という又の名を持っていた。この名前で料理の本まで出したのである。

そこで、元気だった頃、暮れになると近所の奥さんたちを集めて「おせち料理」の教室を開いたものである。何しろ、正月に開かれる宮中のお歌会に出された勅題ちくたいにちなんだ献立をというだけで、その凝りこりようが分かると思う。私は審査員といったところで、つまみ喰いをするのが専門であった。ある年、そろそろ料理の出来上がった頃であらうと台所に行くと、想像通り大鉢や小鉢に色々の料理が盛られていた。そこで味見をと手を出しかけたら父が振り向いて「食うより先にお重を持ってこい」といった。そんなに怒鳴らずに、一つ食べてからと尚まも料理の手を出す私に「今からお重の詰め方を皆に教えるのだから、言われたら早くもってこい」とキツイ言い方である。料理に

夢中で血圧でも高いのかと思ったが、言われた通り足元に気をつけながらお重を抱えて台所に運んだ。「有り難いなー」。今度は前と打って変わった優しい声である。そこまで礼を言われるほどのことはしていないと答えたなら、途端にまた雷が落ちた。「馬鹿もん、お前のことを言ったんではないワイ。お前はそのお重をどうして持ってきたんじゃー!」。

何で怒り出したのか判らない。もう一度お重を持つ格好をして見せた。

「馬鹿もん、お重のどっこに手を掛けて持ったか聞いとるんじゃー」

「底に決まっとる」

近所のご婦人方の前で一人前の男に、馬鹿もんの連発である。もう部屋に帰ろうと思った。その背中に父の声がした。

「途中で手を掛けたら、下のお重を残してしまう。阿弥陀さんはなあ、底の底に手を掛けてくださるから、みんな漏らさずに救われるんじゃ、有り難いなあ」。

（常見寺だより 平成十二年二月号）

みなさんのリレー朗読  
青色 青色 青光  
しょう しき しょう こう

仏様にすがり人に助けられ (匿名希望)

私は浄土真宗に三つのお願いをしました。まず一つ目ですが、今年の二月中旬に県外で暮らしている娘より、「福山で転職できるとかもしれない」「つまり福山に帰ってこられるかもしれない」という嬉しいニュースが舞い込んできました。そこで、婿殿の就職が旨く行きますように、毎日仏前で手を合わせて先祖に南無阿弥陀仏を唱えお願いをしました。月が替わり三月中旬に就職が決まり、私の両親も大変喜んでくれました。

二つ目のお願いは、我が息子も新しい就職先がなかなか決まっていますませんが、房企業の就職試験を受けたとの報告を受けました。その企業は知人がいる企業でしたので知人を頼り「何とかしてくれんか」とお願いして、また仏壇の前で旨くいさますようにと手を合わせ南無阿弥陀仏を唱えお願いをしました。すると四月上旬に無事就職する事ができました。私たちの大願は成就しました。

しかし喜びも束の間で、今度は息子の嫁が大病を患いました。

三つ目のお願いは、嫁の病気の完治です。仏壇の前で手を合わせ、

「子どもがまだ小さいんよ。ママ、ママで会いたがるんよ。さびしいって泣くんよ。可哀そうで可哀そうで。病気を治してやっ」と。

病気が全快するように南無阿弥陀仏を唱えお願いをしました。まさに病者の家族の祈りです。その 甲斐あってかどうにか今はいい方向に行っています。

私という人間は、本当に何もできなくて、仏さまにすがり、人を頼り、人に助けられて生きているんだと、つくづく実感する今日この頃です。

「青色青光」とは少し違うかもしれませんが、これが私の色なんじゃないか。

